

大学の設置区分別の教育研究の内容について大学に望むことは、国立大学で「コースワーク（講義・演習）の充実」の割合が低くなっているのが目立つ程度で、どの区分についてもほぼ似たような傾向を示している。

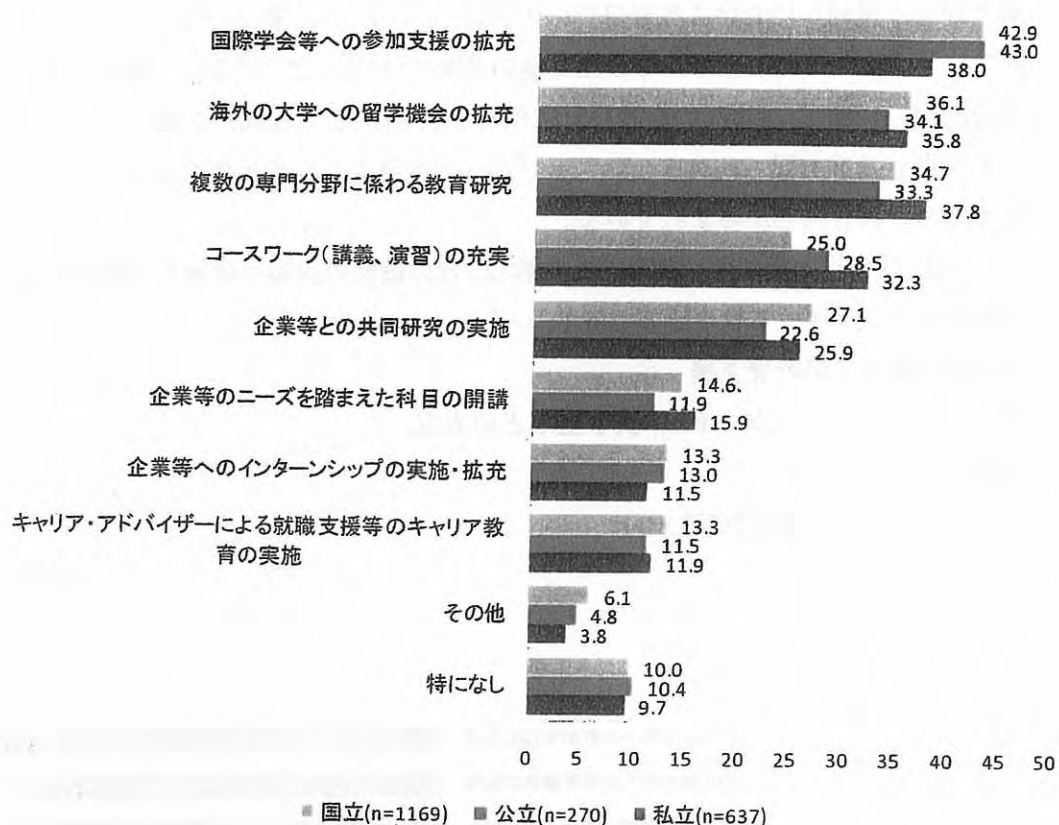


図 I - 40 大学の設置区分別の教育研究の内容について大学に望むこと(%)

大学院の所在地別の教育研究の内容について大学に望むことについては、東京都以外の関東地方と中国地方で「国際学会等への参加支援の拡充」を望む割合が他の地域よりも若干高くなっていることが特徴と認められる。

表 I - 14 大学院の所在地別の教育研究の内容について大学に望むこと(%)

	国際学会等への参加支援の拡充	海外の大学への留学機会の拡充	複数の専門分野に係わる教育研究	コースワーク(講義、演習)の充実	企業等との共同研究の実施	企業等のニーズを踏まえた科目の開講	企業等へのインターンシップの実施・拡充	キャリア教育の実施	キャリア・アドバイザーによる就職支援等のキャリア教育の実施	その他	特になし
北海道(n=98)	40.8	31.6	38.8	24.5	25.5	15.3	16.3	14.3	13.3	6.1	
東北地方(n=155)	39.4	34.8	36.8	27.1	31.6	15.5	10.3	9.0	5.2	11.6	
東京都(n=310)	40.0	36.1	34.5	28.1	24.5	16.8	15.2	15.2	5.2	8.7	
東京都以外の関東地方(n=270)	47.8	37.8	35.6	25.6	30.7	13.3	13.3	14.1	3.3	9.3	
中部地方(n=308)	39.9	33.4	37.3	28.6	26.3	17.2	11.7	12.3	4.9	9.4	
近畿地方(n=509)	37.7	37.5	37.7	27.9	23.4	12.6	11.8	13.2	5.3	10.8	
中国地方(n=141)	49.6	33.3	30.5	28.4	28.4	10.6	13.5	9.9	5.7	9.2	
四国地方(n=43)	39.5	39.5	34.9	23.3	30.2	18.6	14.0	18.6	4.7	7.0	
九州・沖縄地方(n=238)	42.9	35.3	31.1	30.3	23.1	15.5	11.3	9.2	4.2	13.0	

大学院の専攻分野別では、人文科学系で「複数の専門分野に係わる教育研究」についての回答割合が高くなっている。

前述の 2-3-1 項では「博士課程(後期)で経験した教育研究上の取り組み」についての結果を示したが、これと本項の「博士課程(後期)教育研究の内容について大学に望むこと」の結果を比較すると以下ようになる。大学に望むことと博士課程で経験したことの差分をとってみると、最もその差が大きかったのは「海外の大学への留学機会の拡充」であった。海外留学についてはニーズが高いにもかかわらず、実際に経験した人は少ないといえる。他に比較的ニーズの大きかった、「国際学会等への参加支援の拡充」や「複数の専門分野に係わる教育研究」については、実際に経験している割合も比較的高く、ギャップはそれほど大きくはない。

一方、「コースワーク(講義、演習)の充実」については、ニーズ面では中位くらいであ

るが、実際にはほとんどの人が経験をしており、ニーズに対する充足率が高い項目といえる。

表 I-15 大学に望むこと・博士課程で経験したこと(%)

	望 む こ と	経 験 し た こ と	差分
海外の大学への留学機会の拡充	35.7	5.9	29.8
企業等のニーズを踏まえた科目の開講	14.6	4.2	10.4
キャリア・アドバイザーによる就職支援等のキャリア教育の実施	12.6	2.6	10.0
企業等へのインターンシップの実施・拡充	12.7	3.6	9.1
企業等との共同研究の実施	26.2	17.4	8.8
国際学会等への参加支援の拡充	41.4	35.1	6.3
複数の専門分野に係わる教育研究	35.5	32.1	3.4
コースワーク（講義、演習）の充実	27.7	73.2	-45.5
その他	5.2	7.3	-2.1

1.3 博士課程（後期）における教育研究環境について大学に望むこと

博士課程（後期）における教育研究環境について大学に望むことは、「学生に対する経済的支援の充実」が68%でトップであり、次いで「施設設備・スペースの充実」が48%となっている。研究時間に関わるサポートよりも、経済面あるいは研究に関わるハード面での支援を望んでいることが分かる。

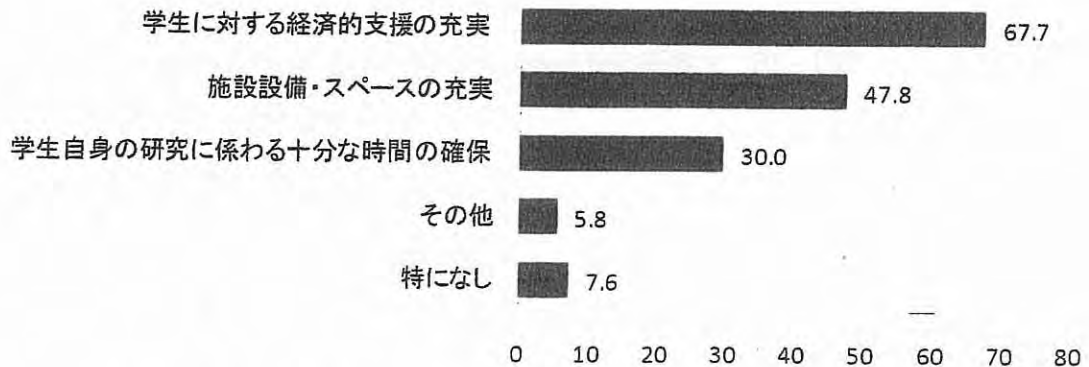


図 I - 41 博士課程（後期）における教育研究環境について大学に望むこと(%)

「その他」の項目の具体的な内容としては、

- ・図書館の充実、図書（データベース）の充実
- ・図書館を含めた大学施設の24時間利用
- ・研究費の充実
- ・社会人大学院生に配慮した種々の対応

などに対する要望が多かった。

大学の設置区分別の教育研究環境について大学に望むことについては、公立大学で「学生に対する経済的支援の充実」を希望する割合が他の区分よりやや低く、また、私立大学では「学生自身の研究に関わる十分な時間の確保」を希望する割合がやや低い。

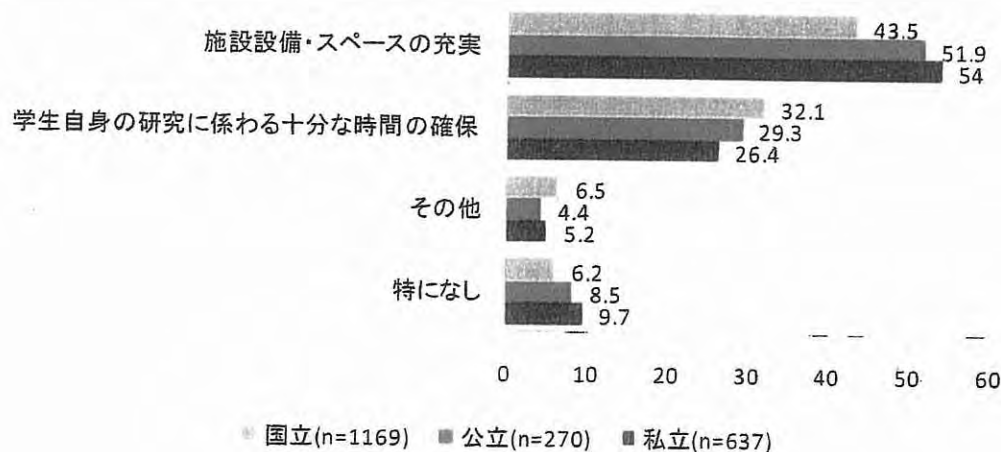


図 I - 42 大学の設置区分別教育研究環境について大学に望むこと(%)

大学院の所在地別に教育研究環境について大学に望むことをみると、東北地方において「学生自身の研究に関わる十分な時間の確保」を望む割合が他の地域に比べて高くなっている。

表 I-16 大学院の所在地別教育研究環境について大学に望むこと(%)

	学生に対する経済的支援の充実	施設設備・スペースの充実	学生自身の研究に係わる十分な時間の確保	その他	特になし
北海道(n=98)	71.4	50.0	32.7	3.1	6.1
東北地方(n=155)	63.2	41.9	38.7	6.5	6.5
東京都(n=310)	71.9	50.0	30.6	6.1	5.8
東京都以外の関東地方(n=270)	73.0	49.3	25.9	5.6	7.4
中部地方(n=308)	61.7	49.7	32.5	5.2	9.1
近畿地方(n=509)	68.0	47.7	27.9	5.5	8.4
中国地方(n=141)	65.2	45.4	26.2	7.1	6.4
四国地方(n=43)	76.7	44.2	39.5	7.0	4.7
九州・沖縄地方(n=238)	65.1	46.6	28.6	7.1	9.2

大学院の専攻分野別にみると、人文科学系では「学生に対する経済的支援の充実」が、また、保健系では「学生自身の研究に係わる十分な時間の確保」が他の専攻分野よりも高い回答割合となっている。

1.4 博士課程（後期）修了後に就職を検討するにあたって企業に望むこと

博士課程（後期）修了後に就職を検討するにあたって企業に望むことを尋ねたところ、「博士課程修了者の採用増加」が60%で群を抜いていた。これに「博士課程週での就職が不利にならない旨を明示した上での求人」が32%、「学士卒・修士課程修了よりも高い処遇」が30%、「博士課程の教育研究への積極的関与」が27.3%、「大学との共同研究の実施」が25.6%、「奨学金の拠出」が22.9%、「博士課程学生を対象としたインターンシップの受け入れ」が13.3%、「その他」が2.2%であった。

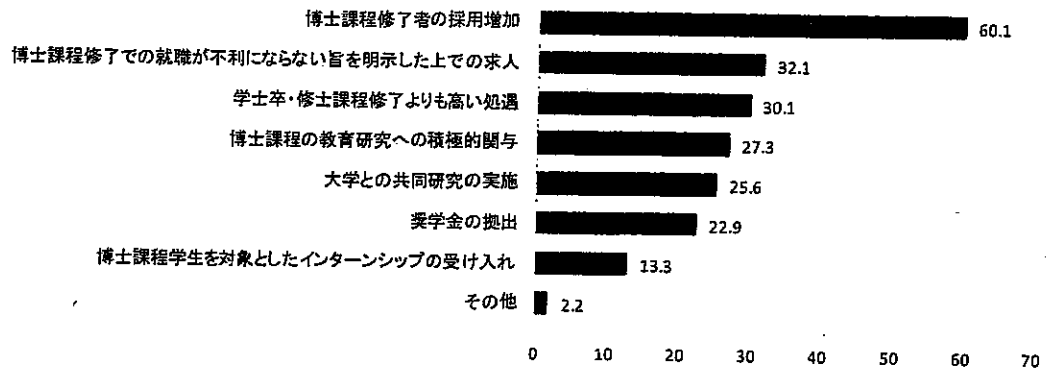


図 I - 43 博士課程（後期）修了後に就職を検討するにあたって企業に望むこと(%)

「その他」の項目に具体的に書き込まれた内容は、

- ・ 就職に関する公平な機会の提供
- ・ 処遇は高くなくてもよいので博士を差別しないで欲しい
- ・ 博士のみを対象とした募集・選考

などがあげられている。「学士・修士課程修了よりも高い処遇」を求める人が3割程度いるなかで、逆に待遇は低くても採用を望む人がわずかではあるが、いることが分かる。